

2022年秋年末闘争・組織拡大

CTGの建交労道本部闘争速報

2022年10月17日/第4号

〒060-0909 札幌市東区北9条
東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

7～9月の新規認定は21件

道本部労災職業病部会は今年7～9月の新規労災認定のとりくみ状況などをまとめました。新規認定は21件（振動障害9／騒音性難聴12）で、労災申請などの要求で11人が新たに建交労に加入しました。

道本部第23回定期大会での鉄道本部・最上代議員の発言 要求を前進させるために職場の声を響かせる

北海道鉄道本部代議員の最上です。JR北海道で21年ぶりにベースアップを勝ちとった今年の春闘を報告し、青年社員を鉄道本部に迎え入れる今後の展望を発言したいと思います。

旅客運送業をメインに商業ビルやホテル業に手を伸ばすJR北海道は、前年度に次ぐ大きな経営赤字額を計上し、たいへん厳しい中での春闘交渉となりました。団体交渉では「灯油代をはじめ物価の急上昇により社員と家族の生活は切り詰めることで何とか凌いでいるが、毎月の生活費の不足分を補填するボーナス支給額も低水準となっている。そんな状況でも社員は公共交通の一翼を担う鉄道マンとしての使命感で昼夜を問わず安全第一で業務に専念し、社員に弁当を持たせ背中を押し続けている家族にこれ以上の我慢を強いることは断じて許せない」と交渉を重ねてきました。建交労の踏ん張りが他労組の仲間たちを激励するものとなり、職場では建交労に頑張ってもらいたいという声も伝えられていました。最終回答は定期昇給4号俸とベースアップ500円が実施され54歳以下社員の平均額で6,215円という結果を残しました。職場では少数派の建交労でも声を上げ続けてきたことで、他労組の仲間たちからの信頼が生まれ、率直な声が届き、期待が寄せられていることを感じていました。長年積み重ねてきた要求、屈せずに声を上げてきた成果だと思っています。

要求を前進させるためには職場の声を響かせることだと思います。建交労は少数ですが職場には多くの仲間や支援者がおります。職場で声を上げられない、でも改善してほしいという仲間の思いを団体交渉で会社に正面から突き付ける姿は自然と職場の雰囲気を変え、小さな建交労の要求に大きな組合が気を配り、見ぬふりは出来ない状況になっています。

この変化は会社にとって大きな脅威だと思います。国鉄の分割民営化でたたかう労働組合の排除をおこなって、会社の意のままに施策を進めてきましたが、JRになって35年が経過する中で、厳しい仕事の対価として今の給料が見合っているのかと疑問を持ち、不満や要求を声にする若手社員が少しずつですが増えています。この仲間たちを建交労に迎え入れ、真正面から声を上げる仲間を増やすことで、明るい職場、風通しが良い職場へと変化が作られると考えています。この変化は若い社員に必ず共感を得られるもので、諦めと我慢から希望と発展に変わり、JRという大企業で建交労鉄道本部という「たたかう組織」を守り、発展させる道筋が出来るものと確信しています。北の鉄道を守るためにも私たち鉄道本部の役割は大きなものと考えます。そのためにも組織拡大にむけて奮闘する決意を述べて発言を終わります。